# 人と獣の境界線づくり

## 福井市　神当部区

代表：　多野　太右ェ門

## 防災･減災　地域共同体強靭化

福井市街
大野市街
神当部

住民人口　２２名
全世帯数　１５戸
（独居　１１戸）

農家戸数　　２戸
耕作面積　１２ha

# 自然災害との闘い

昭和３６年　水害（第２室戸台風）
昭和３８年　３８豪雪
昭和５６年　５６豪雪
平成１５年　福井豪雨（前年に砂防工事完成）

災害から回復する力

# 対策の経緯

平成１２年～　イノシシ被害拡大

圃場周辺延長　２km

H14～19　電気柵３段

H20～25 トタン柵

除草の労力

設置撤去の労力

H20～25 トタン柵で対応
毎年、設置撤去の多大な労力
'05 12 21

地域共同体の 絆
住民9名 ＋ 集落外在住の家族4名

6年間
4mトタン板　500枚
木杭　　１０００本

H26農家組合長　84歳（当時）

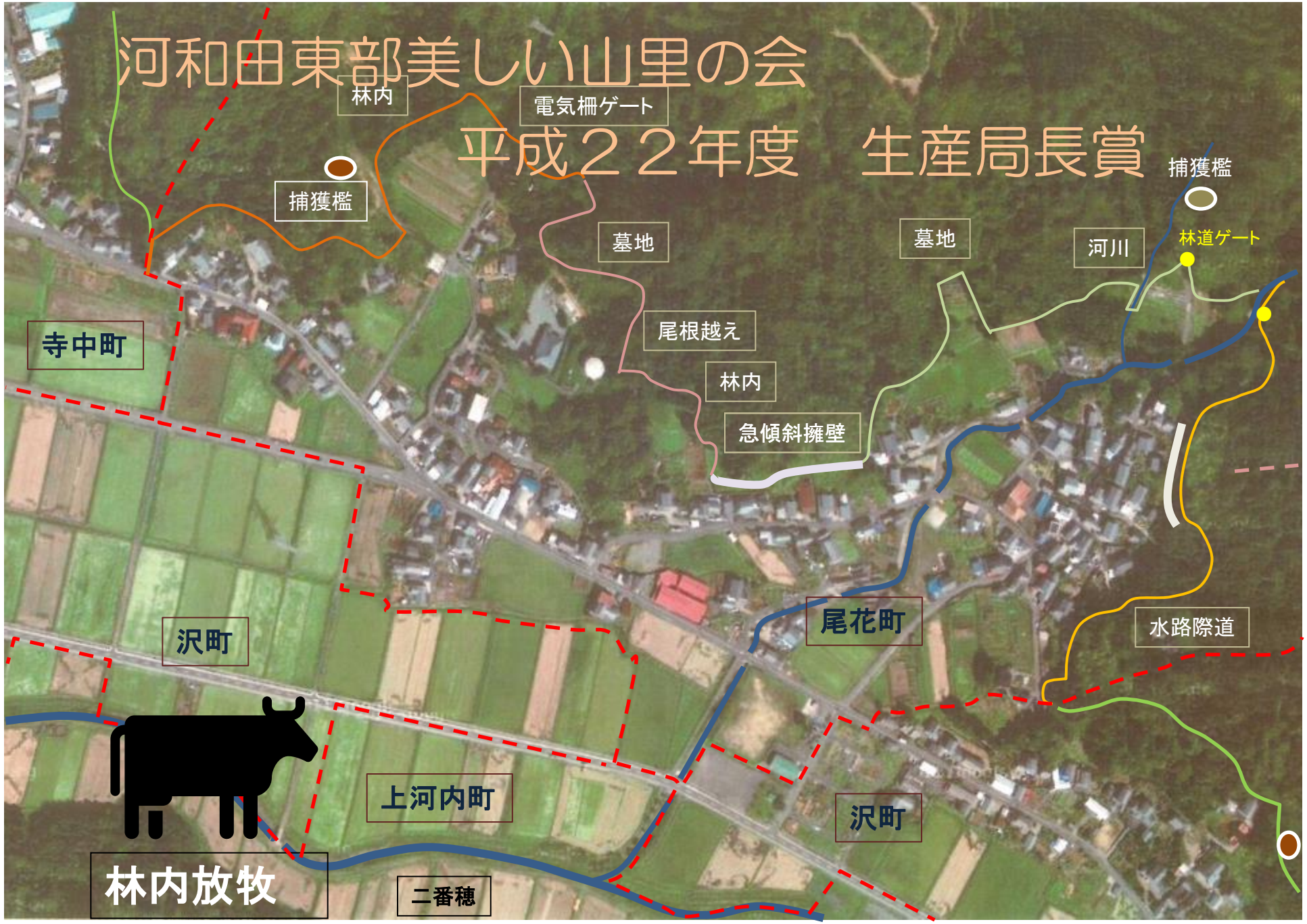
# イノシシ侵入被害（H26当時）

H25➡H26　水稲被害　前年の３倍以上

イノシシ水稲被害
平成２５・２６年

# 逆転への転機

県担当者・農水省アドバイザーからの情報と支援


河和田東部美しい山里の会
平成２２年度　生産局長賞
林内
電気柵ゲート
捕獲檻
捕獲檻
墓地
墓地
河川
林道ゲート
寺中町
尾根越え
林内
急傾斜擁壁
尾花町
水路際道
沢町
上河内町
沢町
林内放牧
二番穂

「人と獣の境界線」 対策の考え方

# 守るべきは 住民の暮らし

農地も含め、集落全体を被害から守る

**里山内電気柵 と 獣側点検通路** を整備

恐怖・警戒心で、獣が集落に出ないように管理

なぜそれが可能なのか

～　ヒントは牛の放牧から　～

痛みに慣れる動物はいない

警戒心が強い野生動物は、同じ所を通る

そこで「痛み＝恐怖」を学習させれば、二度と電気柵に近づかない

結果、集落に出なくなる！

獣側

里山内の 点検ルート を決める
H25.6．４（火）

第１区間完成　H25.6

第２区間完成　H25.7

第３区間　H26.6
KOMATSU

第３区間　H26.6

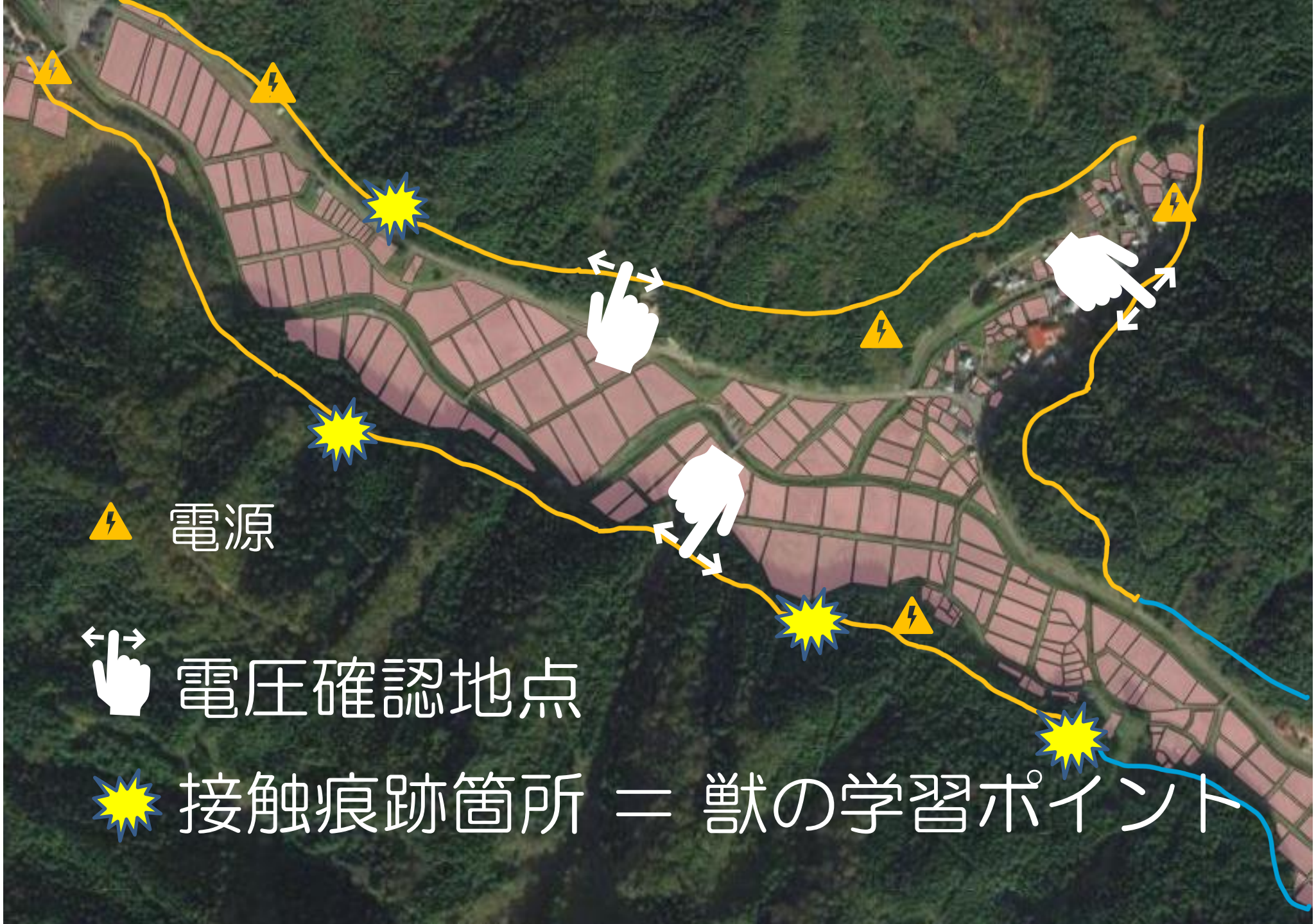
獣側
集落側

6年後
R2.10

6年後
第１区間 R2.10

第１区間　1200 m
第３区間　600 m
第２区間　1700 m
第1・2区間整備；13名　延べ344ｈ　労賃34万円

４月初旬；３～４名で一日　通路補修・電柵コード張り
１１月中旬；４～５名で半日　電柵コード撤収
**点検管理；週１回　３～４名で分担**


電源
電圧確認地点
接触痕跡箇所 ＝ 獣の学習ポイント

# ～　10年間の体験報告　～

点検は、予想以上に 簡単

週１回程度 ３地点 で電圧測定

異常があれば、見て回るが

多くの場合、４ヶ所の弛みを修正するだけ

# ～　今後について　～

地元、上味見地区での横展開を期待しています。